

保育計画成果報告書

法人名	学校法人 小寺学園
施設名	幼保連携型認定こども園 はまようちえん (ナーサリールーム)
報告書 (役職)	市田幸子 (副園長)
住所・連絡先	兵庫県尼崎市浜 2-2-1 3
	☎ 06-6499-4919
	E-mail info@hama.ed.jp

○タイトル (保育計画)

室内遊びの環境作りを充実させ、遊びを通して五感を育てる

○ 主な助成備品

室内用ソフトサーキット、木製パズル、マグフォーマー、パットベル、ティピーテントほか

1. 保育計画策定の目的

1954年に浜幼稚園として、JR 尼崎駅のすぐ近くで開園。地域に根づいた幼稚園として親しまれていましたが、2015年に幼保連携型認定こども園はまようちえんとして新しいスタートが始まり、0、1、2歳児の保育が始まりました。

園庭は、都会の中の幼稚園とは考えられないような自然がいっぱいです。土、水、様々な木々、2mの築山…と四季折々自然の中で身体全体を使って遊んでいます。

そんな中で室内遊びの環境作りを充実させたいという願いから今回の保育計画策定に至りました。

2. 具体的な実施内容

<室内ソフトサーキット>



ハイハイができるようになり、自分から好きな場所に動くことができるようになった0歳児の子どもたちが、平坦なところだけではなく斜面や階段にも挑戦。バランスをとりながら自ら遊びを広げていきました。今では、斜面を歩いてのぼったりおりたりもできるようになり、新しい遊び方に変化していっています。

<木製パズル>



子どもたちの好きな車、船、汽車などの絵がらと6～8ピースという手軽さにプラスして木製であるため手触りの良さから子どもたちが集中して遊べます。

丸、三角、四角のパズルは、型、色、大きさの認識が遊びながら獲得でき、指先の機能の発達にもつながっています。はめこむのは難しいですが、0歳児は1歳児を、1歳児は2歳児の姿を真似て遊んでいます。

<マグフォーマー>



磁石でくっつき、平面的でも立体的でも形が変化していくのが楽しくもあり、不思議でもありません。単純に重ねたものを手に持つだけで喜んでいただけの子どもたちですが、三角、四角、五角とそれぞれの形の違いに気づいていきました。

一緒に遊ぶ3歳以上の幼稚園のお友だちに複雑な立体を作って見せてもらうと、何回も「つくって」とお願いし、作っては崩すことをくりかえし、自分のものになっています。

<パットベル>



大きい木製ボタンを押すと、ベルの音が聞こえてくるのが不思議な子どもたち。
楽しくてポンポン押して遊びました。

子どもたちの聞き馴染んだ「だるまさん」「げんこつやまのたぬきさん」「なべなべそこぬけ」「かごめかごめ」などのわらべうたのメロディーを先生が奏でると、子どもたちはそれにあわせてうたをうたって楽しんでいます。

<ティピーテント>



部屋の中に不思議な空間ができると、興味をしめした子どもたちが中に入ります。
小窓からのぞくと、いつものお部屋が違って見えるのも不思議。
お部屋の中でキャンプごっこを楽しんでいます。

3. その成果と評価

異年齢保育を大きな家族として捉え、あえて壁のない空間で保育を進めています。室内遊びの環境を整えることで異年齢保育の良さ

- ・ 月齢、年齢に関係なく興味があることに自発的に関わろうとしていく
- ・ 友だちが遊んでいる姿を真似る
- ・ 真似をされることで、自尊心が育っていく

など、主体的に遊ぶ子どもの姿が、増していきました。

遊びの中で、指先の力、色・形・大きさの認識などが育ち、集中力も増え、個々の遊びを十分楽しみながら友だちと一緒に楽しむ姿も育っています。

4. 今後の課題と展望

子どもたちの現状にあわせて、環境を整えていくことを意識し続けていきます。

スタッフ一人ひとりが、子どもの発達、育ちを把握し、遊びの中にどのように取り入れていくのか常に考えていきたいです。

以上